

令和6年度進行管理・評価シート
向日市歴史的風致維持向上計画（平成27年2月23日認定）
（最終変更 令和2年5月14日）

□進捗評価シート(様式1)

①組織体制(様式1-1)	
1 向日市歴史的風致維持向上協議会の開催	1
②重点区域における良好な景観を形成する施策(様式1-2)	
1 景観法、屋外広告物法に基づく連携	2
③歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項(様式1-3)	
1 史跡長岡宮跡保存活用事業	3
2 竹の径景観保全事業	4
3 桜の径景観保全事業	5
4 長岡宮跡周辺道路美装化事業	6
5 長岡京・平安京連携事業	7
6 長岡京広報・PR事業	8
7 向日市文化資料館企画展実施事業	9
8 歴史資源調査活用事業	10
9 市民歴史活動連携事業	11
10 地域歴史ボランティア養成事業	12
④文化財の保存又は活用に関する事項(様式1-4)	
1 文化財調査、指定、保存管理(活用)に関すること	13
2 文化財の修理事業、文化財の周辺環境整備事業、 文化財の防災に関すること	14
3 文化財に関する普及・啓発の取組、民間団体への 助成・支援や連携・協力した取組みに関すること	15
⑤効果・影響等に関する報道(様式1-5)	17

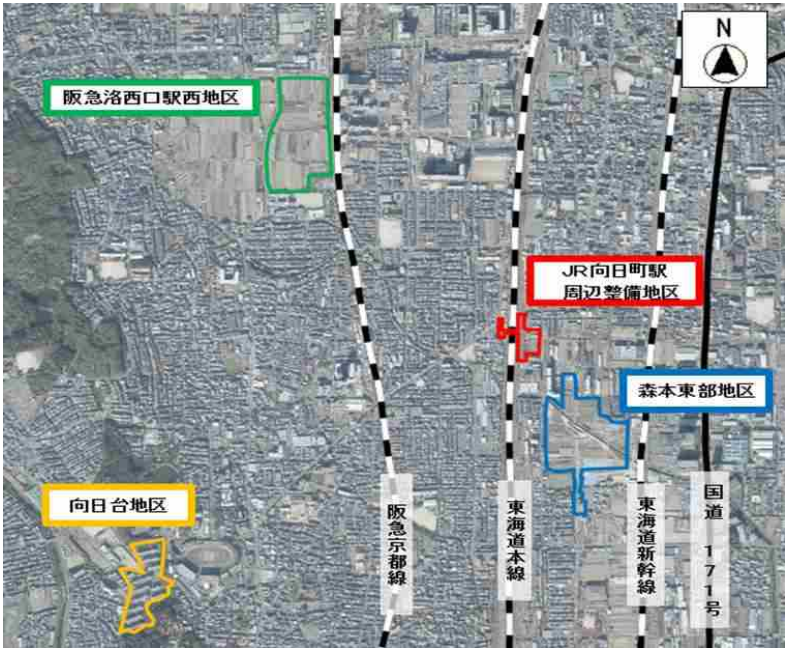
□法定協議会等におけるコメントシート(様式2)	19
-------------------------------	----

評価軸①-1
組織体制

項目		評価対象年度	令和6年度 現在の状況
向日市歴史的風致維持向上協議会の開催			☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手
計画に記載している内容	「向日市歴史的風致維持向上協議会」は、事務局と連携し、計画の実施に関する連絡・調整を行う。 本計画の実現に向けて、環境産業部産業振興課、都市整備部都市計画課及び教育部文教課が事務局となり、庁内関係各課で組織されている「向日市歴史まちづくり庁内推進会議」において、計画推進のための庁内の連絡・調整を行う。		
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で			
学識経験者、地元関係団体、行政(国、府、市)により構成される「向日市歴史的風致維持向上協議会」委員から歴史的風致維持向上に資する事業内容について意見を聴取した。			
進捗状況 ※計画年次との対応		実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)	
☒ 計画どおり進捗している ☐ 計画どおり進捗していない			
状況を示す写真や資料等			
令和7年3月25日(火) 令和6年度第1回向日市歴史的風致維持向上協議会開催 【内容】(1)向日市歴史的風致維持向上計画の進行管理・評価について (2)向日市歴史的風致維持向上計画の最終評価について			
			
令和6年度第1回向日市歴史的風致維持向上協議会の様子			

評価軸②-1

重点区域における良好な景観を形成する施策

項目		評価対象年度	令和6年度 現在の状況
景観法に基づく連携 屋外広告物法に基づく連携			☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手
計画に記載している内容	景観計画の策定の中で、景観計画区域を市域全域に位置付け、本市の特徴を「歴史的景観」「自然的景観」「市街地景観」の3つに分類し、それぞれの地域特徴に応じた景観形成に努めることとしている。 このうち特に、向日丘陵の自然景観、向日神社や西国街道沿いの歴史的景観、阪急西向日駅周辺の良い低層住宅地景観などは本市として守っていき、また、良好な景観を形成していくべき地区であることから、「景観重点地区候補地」に位置付けることを検討している。 なお、景観計画は、この歴史的風致維持向上計画の内容を反映したものとし、歴史的風致の維持向上にも期するものとする。 また、屋外広告物は、景観に対する影響が大きいことから、景観計画の中で、屋外広告物に対する考え方を整理し、向日市らしい屋外広告物の施策を調査・研究することとしている。		
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で			
歴史的風致維持向上計画との整合においては、地域特性に応じた規制誘導が必要である。 しかし、地域特性に応じた規制誘導については、地域住民の協力・理解が必要不可欠である。 そのため、地域住民との合意形成を図りながら規制誘導を定める手法として、都市計画法に基づく地区計画制度の活用が重要となる。 このことから、地区計画の策定支援に関する要望があった際には、積極的に支援する。			
進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)		
☒ 計画どおり進捗している ☐ 計画どおり進捗していない	歴史的風致維持向上計画と整合を図るためには、地区計画制度の成功事例を1つ1つ積み重ね、各地域に地区計画制度を浸透させ、地域住民が主体となった地域特性に応じた規制誘導が必要となる。本市では、市街地開発事業による新たなまちづくりに付随して良好な都市環境・都市景観を形成するため、阪急洛西口駅東地区などの地区計画を都市計画に定めており、建築物等の形態、又は色彩の制限を設けている。また、良好な景観の形成・保全に意欲のある地域の取組を促進するため、引き続き、まちづくり条例に基づく支援の他、地区計画制度以外の手段も、必要に応じて検討する。 現在、JR向日町駅東口開設に関連した周辺整備やJR向日町駅東側の森本東部地区及び、阪急洛西口駅西地区における新たなまちづくりなど、まちの構造が大きく変化する事業が進められていることから、それら主要事業との調整を図る必要も生じている。また、府営住宅建替については、今年度より建て替え工事を実施されることから、本市の地区計画に基づき、建築物の外壁及び屋根等の色彩を、市街地の良好なまち並みとの調和に配慮するなどの調整を行った。		
状況を示す写真や資料等			
 【現在進行中の地区計画制度を活用したまちづくり】			

評価軸③-1

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

項目		評価対象年度	令和6年度 現在の状況
史跡長岡宮跡保存活用事業			☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手
事業期間	昭和56年度～令和6年度		
支援事業名	文化財保存整備費(歴史活き活き史跡等総合活用整備事業、史跡等購入費国庫補助金等) 社会資本整備総合交付金(都市再生整備計画事業)		
計画に記載している内容	史跡長岡宮跡を適切に保存し活用を促進することを目的に、史跡の拡充・拡大と公有化を図るとともに、目に見えない史跡をより体感できるよう、ARやVRなどのソフト面、現地の遺跡表示などのハード面の整備を行う。整備に際しては、文化庁や京都府教育委員会など関係機関と十分に協議・調整を図り、地下遺構や史跡景観を損なわないよう実施する。		

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

【史跡長岡宮跡】

史跡指定面積 15,697.27㎡

公有化面積 15,044.66㎡ / 公有化率 95.84%

整備面積 12,030.01㎡ / 整備化率 76.64%

令和4年度に史跡の買上事業を実施した長岡宮跡大極殿東面回廊地区を整備し、既存の大極殿公園と一体化を図るため、施工監理と整備工事を実施した。

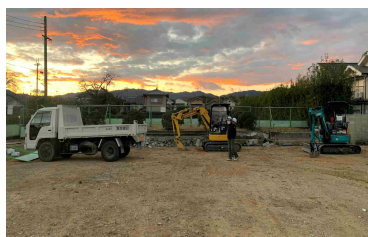
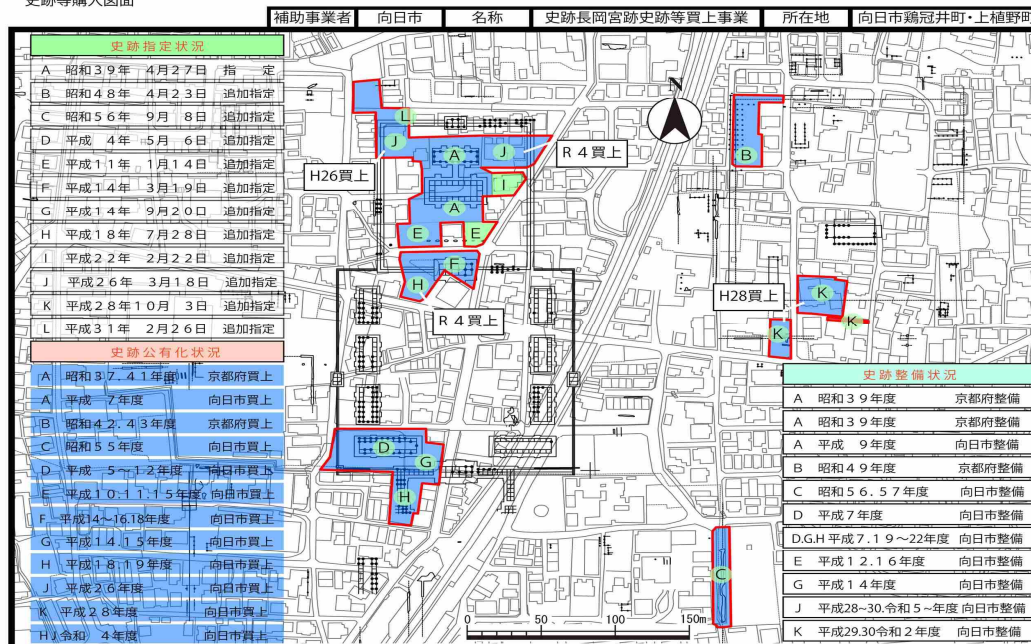
「ふわふわ！朝堂in」を用いた啓発活動を実施した。

また、平成22年度整備が完了した史跡長岡宮跡朝堂院西第四堂地区(朝堂院公園)に案内員を配置し、史跡や国登録有形文化財、市内の歴史文化遺産案内解説など活用の促進を図った。

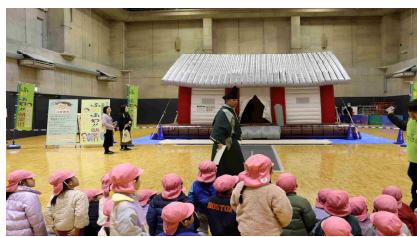
進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)
☒ 計画どおり進捗している ☐ 計画どおり進捗していない	引き続き、大極殿跡、朝堂院跡、内裏跡を含めた史跡長岡宮跡の拡充・拡大と保全整備を実施し、地域の歴史・文化資源や公共施設、交通機関等を連結するネットワーク化を図るなど活用の促進を図る。

状況を示す写真や資料等

史跡等購入図面



長岡宮跡大極殿東面回廊地区整備工事



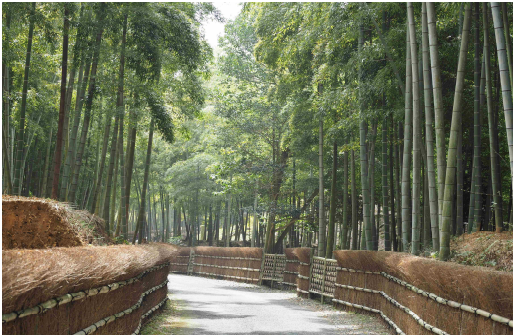
ふわふわ！朝堂inを用いた啓発活動



朝堂院公園

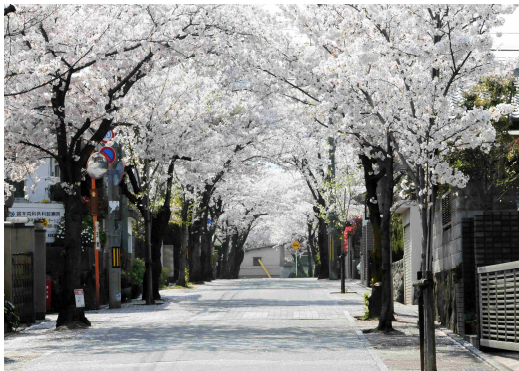
評価軸③-2

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

項目		評価対象年度	令和6年度 現在の状況
竹の径景観保全事業			☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手
事業期間	平成12年度～令和6年度		
支援事業名	市単独事業		
計画に記載している内容	歴史的資源であるタケノコづくりから出る廃材などを利用し、延長約1.8kmに設置された8種類の竹垣の保全改修を行う。		
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で			
竹の径に設置されている竹垣の保全改修を行い、周辺環境の保全と回遊性の向上を図ることができた。 整備延長 240.9m			
進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)		
☒ 計画どおり進捗している ☐ 計画どおり進捗していない			
状況を示す写真や資料等			
全国で良質な筍の産地として知られている本市北西部にある向日丘陵の竹林の景観を保全するため、環境整備(放置竹林対策・不法投棄防止)された竹の径。 この竹の径は、「全国遊歩百選」「歩きたくなるみち500選」等に認定され、また「京都府景観資産」「京都府文化的景観」に選定されるなど、市内外を問わず竹林浴の地として親しまれており、整然と連なる竹垣は、この地域産出の竹材を用い、継続的に整備している。			
			
(整備前)		(整備後)	
			
		(令和7年3月撮影)	

評価軸③-3

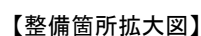
歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

項目		評価対象年度	令和6年度 現在の状況
桜の径景観保全事業			☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手
事業期間	昭和40年代～令和6年度		
支援事業名	平成27年度～平成30年度:社会資本整備総合交付金(都市再生整備計画事業) 令和元年度～令和6年度:市単独事業		
計画に記載している内容	桜の木の成長による根上がりから道路構造物が破損しているため、桜の木の環境にも配慮しながら、安全性の向上、歩車道空間を含めた景観保全のための道路改良や、それらとあわせた樹木の剪定、消毒、古木の伐採や植栽を行う。		
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で			
桜並木の剪定や古木の更新を行い、桜の径の景観保全を図ることができた。			
進捗状況 ※計画年次との対応		実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)	
☒ 計画どおり進捗している ☐ 計画どおり進捗していない			
状況を示す写真や資料等			
阪急西向日駅南東の桜並木が広がる閑静な住宅街にあり、噴水公園を中心に町並みの景観を生かした散歩道として整備され、平成30年3月に「西向日・桜の径と住宅地景観」として京都府景観資産に登録されている。 桜の根上がりなどを継続的に補修し、景観の保全と道路の維持管理を図っている。			
			
桜の径			
(整備前)		(整備後)	
			
		(令和7年3月撮影)	

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

令和2年度～令和4年度で道路改良計画を策定し、令和5年度から事業説明及び用地交渉を実施している。

状況を示す写真や資料等



評価軸③-5

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

評価対象年度		令和6年度
項目		現在の状況
長岡京・平安京連携事業		☐実施済 ☒実施中 ☐未着手
事業期間	平成26年度～令和6年度	
支援事業名	市単独事業	
計画に記載している内容	長岡京の次に、隣接する京都市に平安京が建都されたことから、共通するそれらの歴史や歴史的風致をキーワードとして、京都市と協働で「竹結びフェスタ」や歴史巡りウォーキングなど効果的なイベント事業を検討し、実施する。	
定性的・定量的評価（自由記述） ※定量的評価は可能な範囲で		
美しい田園風景や桜や紅葉など京都西山エリア（京都市西京区（洛西）、向日市、長岡京市、大山崎町）の景観の維持や観光地としての魅力向上に取り組む大原野保勝会と連携し、京都市、向日市、長岡京市、大山崎町の3市1町にまたがり、フォトコンテストの開催や、サイクルツーリズム事業等の広域観光の取組などを推進し、「京都西山」ブランドのPRを図ることができた。		
進捗状況 ※計画年次との対応		実施・検討にあたっての課題と対応方針（自由記述）
☒計画どおり進捗している ☐計画どおり進捗していない		
状況を示す写真や資料等		

「京都西山はいいぞ！フォトコンテスト」



向日市賞



向日市観光協会賞



京都西山 竹の里・乙訓「青もみじとあじさいの御朱印めぐり」

サイクルツーリズム事業
「京都西山ヒルクライム参拝！2024」

評価軸③-6

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

令和6年度	
項目	現在の状況
長岡京広報・PR事業	☐実施済 ☒実施中 ☐未着手
事業期間	平成27年度～令和6年度
支援事業名	市単独事業
計画に記載している内容	長岡京が向日市にあったことを市内外に周知し、認知度を向上するため、長岡宮跡の共通ロゴやPR動画などの作製など、広報PR活動を実施する。
定性的・定量的評価（自由記述） ※定量的評価は可能な範囲で	
引き続き、ロゴマークを活用したグッズ販売を行うとともに、歴史文化交流センターを活用した土器作り体験やまちあるきを行い、長岡京が向日市にあったことを市内外に周知することができた。	
進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針（自由記述）
☒計画どおり進捗している ☐計画どおり進捗していない	

状況を示す写真や資料等

【ロゴマーク】



ピンバッジ
(1個300円で販売)



むこうまんじゅう
市内事業者が開発・販売



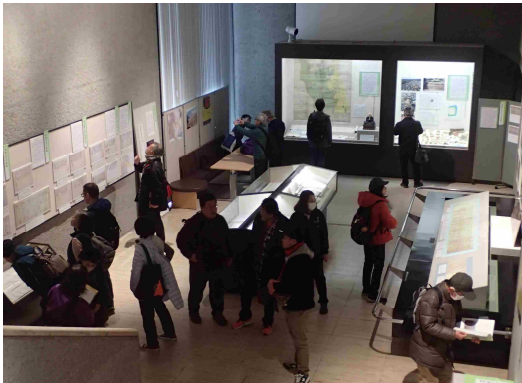
歴史文化交流センター活用事業
「土器どきDAY」
(令和6年8月14日)



歴史文化交流センター活用事業
「なんとなくが面白い ぶら〜り向日市」
(令和7年3月9日)

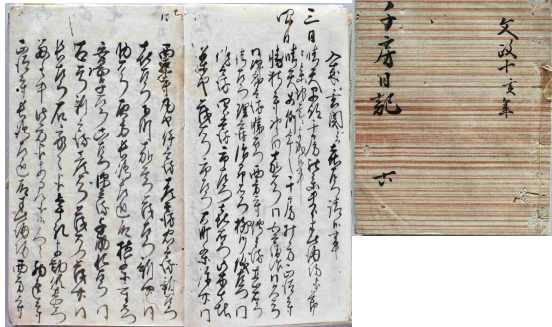
評価軸③-7

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

項目		評価対象年度	令和6年度 現在の状況
向日市文化資料館企画展実施事業			☒ 実施済 ☐ 実施中 ☐ 未着手
事業期間	昭和59年度～令和6年度		
支援事業名	市単独事業		
計画に記載している内容	歴史・文化のまちづくりの中核拠点となる文化資料館において、さまざまな時代における歴史・文化の企画展を開催する。		
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で			
企画展「中世の乙訓・西岡と物集女氏・物集女城」(令和6年11月2日から令和7年1月13日まで開催) 向日市物集女町に所在する物集女城跡が、京都府下の中世城館跡としては初となる国史跡に指定された(令和6年10月11日、文部科学省告示第142号)。周辺の開発が進む平地城館の中にあつては遺存状態が良好であり、かつ歴史的資料にも恵まれ、中世の社会を考える上で重要な遺跡であることが評価されたもので、この国史跡指定を記念し、物集女城とその城主である物集女氏が活躍した室町・戦国時代の西岡・乙訓の歴史をテーマに企画展を開催した。南北朝の動乱や応仁・文明の乱、三好長慶の台頭、細川藤孝の桂川西地支配などの時代背景も含め、室町～戦国期の西岡・乙訓の歴史を広く紹介することができた。また、企画展関連事業として、令和6年12月8日に「乙訓戦国ミュージアムウォーク 向日コース」を開催し、職員の解説で物集女城跡及び周辺の歴史・文化遺産を巡りながら歩いた。市内外から多くの方が参加され、大きな反響があった。さらに、令和7年1月11日に研究者や発掘担当者が一堂に会して物集女城跡の発掘調査成果や歴史的評価、戦国時代の乙訓・西岡の情勢などを紹介する「物集女城国史跡記念シンポジウム」を開催し、後日、シンポジウム当日の録画映像を上映した(令和7年3月21日～23日)。展示、ウォーク及びシンポジウムを通して、物集女城跡の歴史的・文化的価値とその魅力を、多くの方々にご理解いただく機会となった。<企画展期間中来館者数 3,083人>			
進捗状況 ※計画年次との対応		実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)	
☒ 計画どおり進捗している ☐ 計画どおり進捗していない			
状況を示す写真や資料等			
 企画展「中世の乙訓・西岡と物集女氏・物集女城」 (令和6年11月2日～令和7年1月13日)		 物集女城跡出土遺物の展示	
 乙訓戦国ミュージアムウォーク 向日コース (令和6年12月8日)		 物集女城跡国史跡記念シンポジウム (令和7年1月11日)	

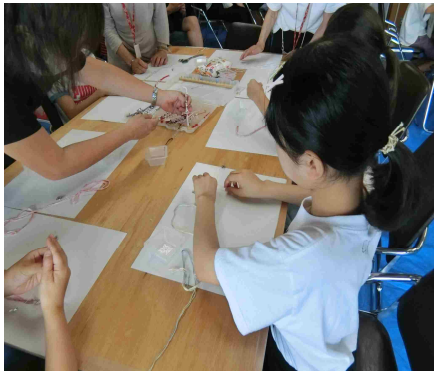
評価軸③-8

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

項目		評価対象年度	令和6年度 現在の状況
歴史資源調査活用事業			☒ 実施済 ☐ 実施中 ☐ 未着手
事業期間	昭和59年度～令和6年度		
支援事業名	市単独事業		
計画に記載している内容	本市に点在する歴史・文化資源を活かしたまちづくりや歴史的風致維持向上計画の推進のため、歴史的風致形成建造物などの歴史・文化資源に関連する現地調査や歴史資料の調査整理を行うとともに、調査結果を活用し、歴史講座の開催や今後のまちづくりへの活用検討などを行う。		
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で			
(1)資料調査の成果を活用し、テーマ展示「くらしのなかの戦争展」を開催した。向日市鶏冠井町の石塔寺に保管されている京都・三条大橋畔の高山彦九郎像に関する資料や関連資料を調査し、彦九郎像造立の中心人物であった昭和前期の石塔寺住職・明渡日正の活動を通して、これまでの戦争展とは異なる視点から戦時期の歴史を紹介することができた。 (2)乙訓地域の江戸時代の帳面や日記などの資料を「むこうまち歴史サークル」古文書班に提供し、解説の助言を行うなど、自主学習を支援した。 (3)特別展「渡邊武と文人たち」を図書館と合同で開催した。椿の研究者としても知られる薬学博士・渡邊武氏旧蔵の美術工芸品などを展示し、薬や椿を通じた同氏の幅広い交流のエピソードとともに紹介した。文化資料館所蔵資料では、特に陶芸家・河合卯之助の押葉模様や赤絵などの陶器を展示したほか、資料調査の成果を活用し、初出展の資料を含め、日本画、版画、俳句など、作陶のみに留まらない河合の多彩な創作活動も紹介することができた。 (4)特別展のテーマに合わせて日曜談話会「陶芸家・河合卯之助の横顔」を開催し、調査成果を元に、これまであまり知られていなかったエピソードや新資料の紹介も交えて、独自の道を歩んだ河合の軌跡を紹介した。			
進捗状況 ※計画年次との対応		実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)	
☒ 計画どおり進捗している ☐ 計画どおり進捗していない			
状況を示す写真や資料等			
 テーマ展示「くらしのなかの戦争展」 (令和6年7月13日～8月25日)  むこうまち歴史サークル(古文書班)に学習資料として 複写を提供した江戸時代の神官の日記  特別展「渡邊武と文人たち」 (令和6年11月2日～11月17日)  日曜談話会「陶芸家・河合卯之助の横顔」 (令和6年11月17日)			

評価軸③-9

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

項目		評価対象年度	令和6年度 現在の状況
市民歴史活動連携事業			☒ 実施済 ☐ 実施中 ☐ 未着手
事業期間	平成24年度～令和6年度		
支援事業名	市単独事業		
計画に記載している内容	向日市まつりなど本市で開催されるイベントと連携して行われる歴史・文化の市民活動を支援する。		
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で			
(1) 令和6年7月21日(日)、市内在住・在学の小学3年生から中学3年生を対象として「作って学ぼう 古代のみやこ・長岡京」を開催した。水晶飾り、魚形の腰飾り、長岡京跡から出土した瓦をモチーフにしたミニチュア瓦マグネットの製作体験と復元古代衣裳の着用体験を通じて、長岡京の歴史を楽しく学んでもらうことができた。準備や当日の運営はボランティアの協力を得て行った。＜参加者数:20人＞ (2) 令和6年7月27日(土)、戦国時代を中心に乙訓地域の歴史を調査・研究している京都乙訓ふるさと歴史研究会の協力により、市内在住・在学の小学4年生から中学3年生を対象として「2024戦国時代へタイムスリップ！ー西岡衆を深める 文書と寄合ー」を開催した。室町～戦国期の激動の時代に活躍した西岡衆について学び、西岡衆になったつもりで課題に向き合い対応を話し合う「寄合」を体験することで、地域の歴史への理解を深めてもらうことができた。＜参加者数:6人＞ (3) 京都乙訓ふるさと歴史研究会の協力により、小学3年生から中学3年生を対象として、令和6年11月24日(日)、12月1日(日)、令和7年1月11日(土)の全3回で「学んで伝える 戦国時代の西岡衆」を開催した。戦国時代の武士たちが使っていたかぶとを厚紙で製作し、当時の城館の構造などについても学習した上で、最終回は「物集女城跡国史跡記念シンポジウム」のQ&Aコーナーに登壇し、学習したことを元に、専門家に質問を行った。参加者自身が体験型学習を通して西岡衆への理解を深めることができたことに加え、その成果を400人の定員が満席となった大規模なシンポジウムの舞台上で披露することで、本市の歴史の中でも長岡京期と並んで特色がある戦国期の歴史を広く発信することができた。＜参加者数:6人＞			
進捗状況 ※計画年次との対応		実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)	
☒ 計画どおり進捗している ☐ 計画どおり進捗していない			
状況を示す写真や資料等			
 「作って学ぼう 古代のみやこ・長岡京」 水晶飾り製作体験(令和6年7月21日)  「作って学ぼう 古代のみやこ・長岡京」 古代衣裳着用体験(令和6年7月21日)  「2024戦国時代へタイムスリップ！ー西岡衆を深める 文書と寄合ー」(令和6年7月27日)  物集女城跡国史跡記念シンポジウム Q&Aコーナーで専門家に質問(令和7年1月11日)			

評価軸③-10

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

項目		評価対象年度	令和6年度 現在の状況
地域歴史ボランティア養成事業			☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手
事業期間	平成29 年度～令和6 年度		
支援事業名	平成29 年度～平成30 年度:社会資本整備総合交付金(都市再生整備計画事業) 令和元年度～令和6 年度:市単独事業		
計画に記載している内容	ボランティアとして、本市に多数存在する歴史・文化資源を説明案内する活動をしている団体に対し、さらなるボランティアの養成などを行うため、必要な支援を行う。		
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で			
令和元年に開講した、観光を通じたまちづくりを担う人材育成プログラム「むこう観光スタートアップ講座」(受講者数 計26名)のガイド班から、市民団体「古都のむこうまちブラガイド」が発足し、現在2名で活動中。 「阪急沿線観光あるき」事業の中で、向日市を巡るガイドツアーを実施。その他の活動として、他市のガイドと連携した合同ガイドツアーや、ボランティアガイド交流会への参加等を実施した。			
進捗状況 ※計画年次との対応		実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)	
☒ 計画どおり進捗している ☐ 計画どおり進捗していない			
状況を示す写真や資料等			



<古都のむこうまちブラガイド>

<令和6年度の主な活動内容>

- ・阪急沿線観光あるき
- ・長岡京市ガイド団体との連携ガイド
- ・京都府立向日が丘支援学校生徒の訪問インタビュー応対
- ・ボランティアガイド交流会参加



<ガイドコース>
令和6年5月25日(土)
ガイドツアーの様子



<ガイドコース>
令和6年11月4日(月)
ガイドツアーの様子

評価軸④-1

文化財の保存又は活用に関する事項

項目		評価対象年度	令和6年度 現在の状況
文化財調査、指定、保存管理(活用)に関すること			☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手
計画に記載している内容	重点区域内に存在する指定等文化財について、文化財の周辺環境も含めて保存活用の検討を行い、文化財指定の有無を問わず、文化財を市民の遺産として守り育てるという市民意識の醸成を図る。		
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で			
(1) 平成31/令和元年度に貴重な歴史・文化遺産である史跡長岡宮跡の価値を確認し、その価値を維持し、次世代へと確実に継承していくことを目的とし、保存・管理・活用を行うための指針として、「史跡長岡宮跡保存活用計画」を策定した。本年度は、本活用計画に基づき史跡長岡宮跡の大極殿東面回廊地区の整備工事を進めた。 (2) 本市の歴史・文化遺産全体の保存・管理・活用を行うための指針として「向日市文化財保存活用地域計画(仮称)」の策定について準備を進めた。 (3) 史跡乙訓古墳群の保存・管理・活用を行うための指針として「史跡乙訓古墳群保存活用計画(仮称)」について、史跡が所在する乙訓2市1町文化財担当課で構成する「乙訓文化財事務連絡協議会」で令和2年度から協議を始め、策定について準備を進めた。 (4) 京都近郊に残る数少ない中世城館で、畿内近国の中世の政治経済状況を知る上で重要な遺跡として、物集女城跡が令和6年6月24日(月)に国の文化審議会より文部科学大臣に答申された。令和6年10月11日(金)には官報告示において国の史跡となった。 (5) 昭和初期に建てられた中廊下型の典型的郊外型住宅であるが、換気及び通風の徹底、造り付け家具の工夫など、住環境に配慮した建築装置が充実し、寿岳夫妻の出版活動の場として、向日庵(旧寿岳家住宅)主屋と向日庵(旧寿岳家住宅)門及び土留の2件が、令和7年3月13日(木)に官報告示によって登録され、市内の国・府・市指定等文化財は100件となった。			
進捗状況 ※計画年次との対応		実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)	
☒ 計画どおり進捗している ☐ 計画どおり進捗していない		引き続き、文化財を適切に保護し活用の促進を通じ、地域振興・観光振興に努め、魅力あるまちづくりに寄与する。	
状況を示す写真や資料等			
 整備計画イメージパース 五塚原古墳  整備計画イメージパース 寺戸大塚古墳  物集女城跡 国指定史跡 令和6年10月11日(金)官報告示  向日庵(旧寿岳家住宅)主屋 向日庵(旧寿岳家住宅)門及び土留 令和7年3月13日(木)官報告示			

評価軸④-2

文化財の保存又は活用に関する事項

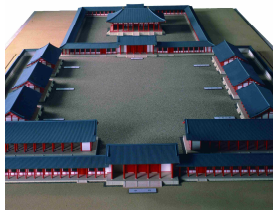
項目		評価対象年度	令和6年度 現在の状況
文化財の修理事業、文化財の周辺環境整備事業、文化財の防災に関すること			☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手
計画に記載している内容	文化財は、火災や事故、盗難などにより消滅や毀損すれば、再び回復することが不可能になることがある。文化財の保存修理(整備)が必要な場合は、文化財の価値を損なうことなく損傷箇所などの修理を行う必要がある。文化財の所有者・管理者は、文化財の保存修理について深く認識し、施設の維持管理と修繕、周辺環境の整備、日常の保守点検の強化、関係機関との密接な連絡等を徹底し事故等の根絶を図る。		
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で			
(1)文化財の修理事業 国や府の補助を活用しながら必要性の高いものから計画的に修理を進めており、本計画終了後も継続的に実施していく必要性があると考えている。 重要文化財 向日神社本殿ほか 自動火災報知器等点検補助 京都府指定文化財 南真経寺本堂壁修繕工事補助 京都府指定文化財 南真経寺開山堂・本堂 自動火災報知器等点検補助 京都府指定文化財 須田家住宅 自動火災報知器等点検補助 (2)文化財の周辺環境整備 竹林ボランティアによる寺戸大塚古墳の竹林整備 (3)文化財の防災(防火・防犯等) ①文化財立入検査 令和7年1月22日(水) 向日神社、南真経寺、北真経寺 ②文化財消防訓練 令和7年1月26日(日) 向日神社 ③文化財・防火点検周知 市内一円の社寺に送付 ④その他 ●令和6年12月20日 市内指定等文化財の所有者管理者に年末年始の「文化財等の防火防犯の徹底について」を送付 ●令和6年12月26日 文化財防火ポスターを市内の国・府指定等文化財所有者らに送付 ●令和6年12月26日 市内指定等文化財の所有者管理者に「第70回文化財防火デーの開催について」案内			
進捗状況 ※計画年次との対応		実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)	
☒ 計画どおり進捗している ☐ 計画どおり進捗していない		引き続き、各種の文化財調査の修理事業、環境整備、防火防犯等の保存措置を講じる。	
状況を示す写真や資料等			
   南真経寺開山堂壁修繕工事(令和6年9月2日～令和6年11月30日)    消防設備立ち入り検査状況(南真経寺) (令和7年1月22日) 消防設備立ち入り検査状況(北真経寺) (令和7年1月22日) 文化財防火デー啓発看板設置状況 (旧上田家住宅・令和7年1月23日～29日)			

評価軸④-3

文化財の保存又は活用に関する事項

		評価対象年度	令和6年度
項目		現在の状況	
文化財に関する普及・啓発の取組、民間団体への助成・支援や連携・協力した取組に関すること		☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手	
計画に記載している内容	文化資料館等の施設を有効に活用し、企画の充実を図るとともに、関係施設の連携を深め、文化財の資料収集や調査研究を推進するとともに、施設機能の充実と公開活用を行い、一体的な情報発信に取り組むこととする。		
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で			
1 文化財の普及啓発の取組(展示、講座、講演会、教室等) (1)文化資料館常設展示「長岡京の歴史と文化」年間入館者数 13,455人 (2)史跡長岡宮跡朝堂院公園史跡案内 年間見学者数 6,118人 (3)史跡長岡宮跡朝堂院公園案内所ミニ展示 年間見学者数 6,118人 (4)史跡長岡宮跡旧上田家住宅史跡案内 年間見学者数 9,020人 (5)史跡長岡宮跡内裏内郭築地回廊ギャラリー展示 年間見学者数 590人 (6)市民考古学講座(4回)・関連講演会(1回開催) 講座等参加者数 199人・講演会参加者数 68人 (7)埋蔵文化財調査成果展示会「長岡宮内裏-内裏正殿の再発掘-」(R6.9.7～10.14)期間中入館者 1,547人 (8)埋蔵文化財調査成果展記念講演会[日本古代都城における大極殿・朝堂院・内裏-歴代王権の理想像を考える-](R6.9.16)参加者数 63人 (9)AR長岡宮の活用 ダウンロード数 588回(累計24,488回) 貸出タブレット利用者 216人(累計5,507人) (10)墳タビ!物集女車塚古墳の活用 184回(累計10,429回) (11)物集女車塚古墳公開 一般公開 356人 小学校団体見学245人(累計601人) (12)ふわふわ!朝堂in (R6.2.13)参加人数 55人 (13)文化資料館企画展・特別展 企画展「中世の乙訓・西岡と物集女氏・物集女城」(R6.11.2～R7.1.13) 期間中入館者数 3,083人 (14)文化資料館テーマ展示 「郷土玩具展」(R6.5.18～R6.7.7) 期間中入館者数 1,379人 「くらしのなかの戦争展」(R6.7.13～R6.8.25) 期間中入館者数 2,098人 「ふるさと歴史紙芝居原画展」(R6.7.13～R6.8.25) 期間中入館者数 2,098人 「くらしの道具展」(R7.1.18～R7.3.30) 期間中入館者数 2,859人 「ひな人形展」(R7.2.22～R7.3.30) 期間中入館者数 1,244人 (15)夏休み親子歴史教室 「伝統文化を学ぼうー紙漉きと書道ー」(R6.7.24～26 講師:NPO法人向日庵理事ほか) 参加者数 16人 (16)日曜談話会 「扁額と古文書ー京都府暫定登録文化財の古文書を読んで社額の由緒や江戸時代の村を調べようー」(R6.5.5) 参加者数 28人 「その後の物集女氏」(R6.9.15) 参加者数 96人 「陶芸家・河合卯之助の横顔」(R6.11.17) 参加者数 20人 (17)「戦国時代へタイムスリップ!ー西岡衆をさぐるー」活動報告会(R6.5.3) 参加者数 50人 (18)ワークショップ「作って学ぼう 古代のみやこ・長岡京」(R6.7.21) 参加者数 20人 (19)課題解決型体験学習「2024戦国時代へタイムスリップ!西岡衆を深めるー文書と寄合ー」(R6.7.27) 参加者数 6人 (20)連続ワークショップ「学んで伝える 戦国時代の西岡衆」(R6.11.24、12.1、R7.1.11)(全3回) 参加者数 6人 (21)小さいピアノコンサート(R6.11.9) 参加者数 55人 (22)乙訓戦国ミュージアムウォーク 向日コース(R6.12.8) 参加者数 48人 (23)物集女城跡国史跡記念シンポジウム(R7.1.11) 参加者数 334人 (24)物集女城跡国史跡記念シンポジウム録画映像上映会(R7.3.21～23) 参加者数 75人 2 民間団体への助成・支援 大極殿遺蹟保存協賛会 文化活動補助 40,000円 森本遺蹟保存会 文化活動補助 19,000円 物集女城を考える会 文化活動補助 19,000円 3 民間団体との連携・協力 市民団体行事及び向日市まつりでの埋蔵文化財出土遺物展示ー向日市まつり中止			
進捗状況 ※計画年次との対応		実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)	
☒ 計画どおり進捗している ☐ 計画どおり進捗していない			

1 文化財の普及啓発の取組



(1)文化資料館常設展示
「長岡京の歴史と文化」
(通年)



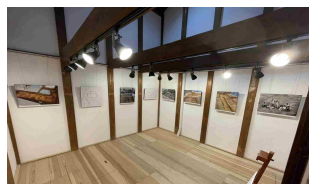
(2)史跡長岡宮跡 朝堂院公園
史跡案内(通年)



(3)史跡長岡宮跡 朝堂院公園 案内所ミニ展示(通年)



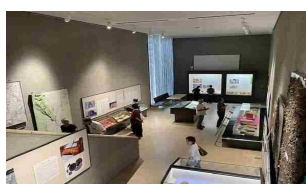
(4)史跡長岡宮跡 旧上田家住宅 史跡案内(通年)



(5)史跡長岡宮跡 内裏内郭
築地回廊ギャラリー展示
(通年・時季ごと)



(6)市民考古学講座
(令和6年10月5日)



(7)埋蔵文化財調査成果展示
(令和6年9月7日～10月14日)



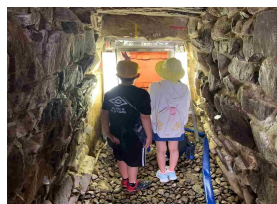
(8)埋蔵文化財調査成果展 展示会記念講演会
(令和6年9月16日)



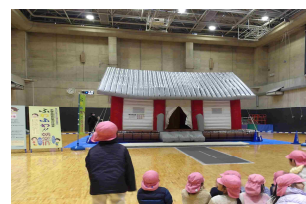
(9)AR長岡宮の活用
(令和6年5月16日)



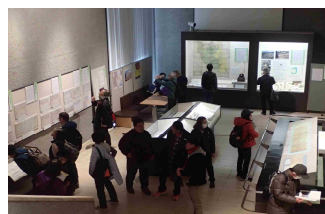
(10)墳タビ！物集女車塚古墳



(11)物集女車塚古墳一般公開
小学校団体見学
(令和6年5月25日～6月2日)



(12)ふわふわ！朝堂in
(令和6年2月13日)



(13)文化資料館企画展
「中世の乙訓・西岡と物集女氏・
物集女城」
(令和6年11月2日～令和7年1
月13日)



(14)文化資料館テーマ展示
「郷土玩具展」
(令和6年5月18日～7月7日)



(15)夏休み親子歴史教室
「伝統文化を学ぼうー紙漉きと
書道ー」
(令和6年7月24日～26日)

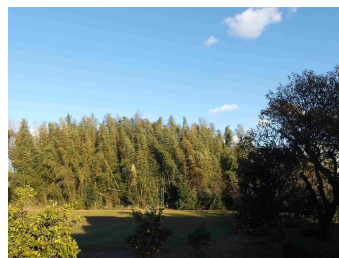
2 民間団体への助成・支援



(1)大極殿遺蹟保存協賛会
大極殿祭(令和6年11月11日)



(2)森本遺蹟保存会
森本遺蹟顕彰祭(令和6年11月1日)



(3)物集女城を考える会
総会(令和6年6月29日)

進捗評価シート		(様式1-5)
評価軸⑤-1 効果・影響等に関する報道		
		評価対象年度
		令和6年度
報道等タイトル	年月日	掲載紙等
京都・向日市発祥、コシヒカリの「元祖」米をPR	R6.4.4	京都新聞
京都府向日市役所近くにある古墳「横穴式石室」昔のまま	R6.4.8	京都新聞
京都府向日市で「特産」朝掘りタケノコ直売会開催へ	R6.4.10	京都新聞
かつて向日神社の大鳥居にあった社額や、吉宗ゆかりの品も 向日市の文化財を多数展示	R6.4.27	京都新聞
京都府向日市の「国史跡」古墳の石室を公開 文化財職員の解説付き	R6.5.1	京都新聞
「幻の都」の存在を証明した学者たちが作った会とは 今も郷土の遺産を守る	R6.5.6	京都新聞
戦国時代へタイムスリップ 京都府向日市で地元の武士集団を小学生が研究、魅力を体感	R6.5.6	京都新聞
色鮮やかな稚児行列が街道練り歩く 釈迦の誕生祝い「花まつり」	R6.5.7	京都新聞
京都市西京区や長岡京市、向日市の社寺・城跡巡ろう 御朱印キャンペーン	R6.5.16	京都新聞
観光公害解消へ「京都の隠れた観光スポット」周遊ツアー キーワードは「京都西山」	R6.5.28	京都新聞
京都府向日市の古墳で一般公開 横穴式石室に来場者が感嘆の声	R6.5.28	京都新聞
京都府向日市の旧家で「端午の節句」旧暦で祝う催し 昭和初期の甲冑飾り展示	R6.6.14	京都新聞
コシヒカリの「元祖」は京都府向日市が発祥 児童が「旭米」を田植え	R6.6.18	京都新聞
京都府向日市の旧家で埴輪など展示 長岡宮の内裏跡から発掘「古墳時代のこと想像して」	R6.6.22	京都新聞
京都府向日市の「物集女城跡」を史跡に指定へ	R6.6.24	京都新聞
京都府向日市の物集女城跡が史跡に指定へ 今年は物集女宗入の450回忌、地元喜び	R6.6.25	京都新聞
「放置竹林減らしたい」京都府向日市の小学生が竹の加工法など学ぶ	R6.6.28	京都新聞
京都府向日市の神社で「夏越の大祓」 家族連れが茅の輪くぐり	R6.8.1	京都新聞
「信長には屈せず自立を」京都府向日市で戦国時代の「国衆」になりきり地域の歴史学ぶ	R6.8.3	京都新聞
渡来系氏族の秦氏に由来 西岡地域に水を届けた歴史は「西岡衆」にもつらなる	R6.8.5	京都新聞
「長岡宮」内裏の発掘成果を紹介、講演会も 京都府向日市で9月	R6.8.24	京都新聞
織田信長の圧力で離散の「物集女」氏どうなった？ 京都府向日市で調査報告へ	R6.8.28	京都新聞
よろいかぶと姿の「飛び出し坊や」が京都府向日市に登場 そのモデルとは	R6.9.11	京都新聞
「幻の都」を再び発掘調査した結果や過去の研究成果を紹介	R6.9.17	京都新聞
「幻の都」長岡京の痕跡、想定より北側に確認 従来よりも北側に広がるのか	R6.9.19	京都新聞
京都にあった「幻の都」で画期的発見	R6.9.20	京都新聞
国衆・物集女宗入の模刻像が完成 清浄華院での開眼法要、京都府向日市の寺に安置へ	R6.9.28	京都新聞
織田信長に抵抗した誇り高き武將しのぶ 京都府向日市で物集女宗入の法要	R6.9.29	京都新聞
京都の国語学者・寿岳章子さん、親交あった研究者が評伝	R6.10.6	京都新聞
京都府向日市で「重陽の節句」再現する催し 長岡宮の内裏跡に建つ住宅で	R6.10.12	京都新聞
京都が発祥、コシヒカリのルーツ「旭米」を収穫 児童ら稲刈り	R6.10.16	京都新聞
京都府西部の名物街道の交差点近くにある「城」跡を深掘り 開発免れ国史跡に	R6.11.5	京都新聞
平城京から長岡京へ遷都された日を記念「大極殿祭」	R6.11.17	京都新聞
京都府向日市で「悲劇の武將」が主だった城跡の企画展 国の史跡指定を記念	R6.11.27	京都新聞
室町・戦国時代に乙訓の自治担った「西岡衆」って？	R6.12.2	京都新聞
竹細工に灯るカラフルな光 地元高校生が児童に発信、特産品の魅力	R6.12.3	京都新聞
「からくりってすごい！」京都府向日市で、子どもたちが特産の竹を使ってオルゴール作り	R6.12.9	京都新聞
京都府向日市に住んだ国語学者・寿岳章子さん、日記に書かれた多彩な交遊録	R6.12.11	京都新聞
京都府向日市の戦国時代の城が史跡指定へ 「北の玄関口として整備したい」	R6.12.29	京都新聞
幻の都「長岡京」発掘70年 ノーベル賞吉野彰さんが明かす	R6.12.30	京都新聞

報道等タイトル	年月日	掲載紙等
幻の都・長岡京の発掘70年 発掘作業に関わり、汗を流した人たちにその思いを聞く	R7.1.1	京都新聞
いかにまちを作っていくか「70年前から宿命づけられてきた」長岡宮、都の中心部伝える工夫を	R7.1.9	京都新聞
京都府向日市の物集女城跡が国史跡に指定 地元住民が「御城印」どこで販売？	R7.1.10	京都新聞
宮中行事に起源たどる「オコナイ」営む 「瑠璃光」と言いながら当主の額に朱、無病息災祈る	R7.1.15	京都新聞
京都府向日市の旧上田家で女性2人の作品展 刺しゅうやちりめん細工、華やかに	R7.1.15	京都新聞
京都府向日市の旧家に大正～昭和の農機具ずらり かつての農家の暮らし紹介	R7.1.22	京都新聞
京都府向日市の小学校で竹とんぼ作り 「難しかった」竹について理解深める授業	R7.1.31	京都新聞
京都府向日市の旧上田家住宅で旧正月を祝う催し 琴の調べが聴衆を魅了	R7.2.5	京都新聞
京都府向日市にある「物集女城跡」国史跡の指定を記念、シンポジウムで語り合う	R7.2.6	京都新聞
戦国時代の携帯食「兵糧丸」ってどんな味？「物集女の戦国メシ」児童たちが給食で味わう	R7.2.17	京都新聞
京都府向日市が物集女城跡を公園に整備	R7.2.19	京都新聞
京都の乙訓・西岡地域の中世城館6カ所紹介のパネル展	R7.2.20	京都新聞
阪急西向日駅近くから見つかった楼閣「世紀の大発見」	R7.3.3	京都新聞
発掘70年を経て徐々に浮かび上がった「幻の都」の実像 京都府向日市で長岡京語る講演会	R7.3.3	京都新聞
江戸時代の僧侶が使用した陶磁器を展示 京都・向日の学問所跡から出土	R7.3.14	京都新聞
京都府向日市の阪急駅前はまだで英国の郊外住宅地	R7.3.15	京都新聞
「住んでいても知らない歴史を子どもたちが教えてくれた」 京都府向日市で児童が住民向けガイド	R7.3.18	京都新聞
京都府向日市の寺戸大塚古墳で新たな石室を確認 被葬者の親族か、古墳時代前期の遺構	R7.3.20	京都新聞
京都府向日市の寺戸大塚古墳で現地説明会「これほどきれいに残っていたとは」考古ファンも驚き	R7.3.22	京都新聞
定性的・定量的評価（自由記述） ※定量的評価は可能な範囲で		
令和6年10月に、中世城館を代表する遺跡である「物集女城跡」が国の史跡となったことから、報道メディアの注目度が高まり、本市の歴史的風致にちなんだ話題が取り上げられる傾向が多くなり、本市の歴史的風致の周知を一層図ることができた。また本市の歴史的風致を形成する「竹」にちなんだ話題も多く取り上げられ、本市が誇るべき景観の周知も図ることができた。歴史的風致に係わる市民の活動も多く取り上げられており、「ふるさと向日市」への住民理解が広まることにつながった。		
進捗状況 ※計画年次との対応		実施・検討にあたっての課題と対応方針（自由記述）
□計画の進捗に影響あり ■計画の進捗に影響なし		
状況を示す写真や資料等		

法定協議会等におけるコメント

(様式2)

評価対象年度	令和6年度
・法定協議会等におけるコメント	
コメントが出された会議等の名称： 令和6年度第1回向日市歴史的風致維持向上協議会	
会議等の開催日時： 令和7年3月25日	
(コメントの概要)	
○向日市の「歴史まちづくり」は、従来の歴まち制度の施策展開のイメージを覆すものであったことをもっとアピールすべきである。一部の地域を切り取り、部分的な施策を行うのではなく、市のほぼ全域が重点区域となっており、まち全体に対して施策展開を行ってきた手法を『向日市方式』と題して、その独自性を評価すべきではないか。 ○堅苦しい最終報告書を書くだけで終わらずに、歴まち10年の成果を振り返りつつ、読み易い内容に改めた冊子などを作製し、広く普及してはどうか。 ○今見えている景観は、重層的な歴史が絡み合いながら形成されてきたものであり、その重層性の積み重なりを市民の人たちに説明する際、全体事業のまとめを含めて平易な内容で構成された資料があると、広く伝わりやすいと考える。 ○計画期間の間、向日神社周辺の整備も進められ、休憩所やトイレなど来訪者に喜ばれている。今後も市民が集う場として、施策を継続していただきたい。 ○文化や風致の維持向上においても、観光消費額等の「お金」という指標は欠かせないと思う。今後、中長期的に人口の減少が見込まれる中、交流人口を増やし、来訪者がこの地域に「お金」を落としてもらう仕掛けも、後は考えていく必要があると思われる。 ○計画は終了するが、予算は無くとも、今後も関係者が集い、何らかの形で意見を共有し合うネットワークのような場があれば望ましい。 ○近畿地方整備局管内で、「近畿歴まちサミット」を定期的開催している。サミットの連絡会には歴まち認定団体に参画いただいており、計画期間が終了した団体も参画いただけるので、歴まち全体のネットワークは今後も共有してもらうことができる。また今後、先例自治体の事例集を近畿地方整備局で取りまとめていきたいと考えており、向日市の事例も取り上げていきたい。	
(今後の対応方針)	
○ご指摘のとおり、現状のところ、向日市に観光で訪れる方が、向日市内で消費をしていただく環境は十分ではないと考えており、ご意見を踏まえつつ、今後の方策を検討していきたい。 ○今後の「歴史まちづくり」については、令和7年3月に策定した、市の施策の柱となる「第3次ふるさと向日市創生計画」において、推進する施策の一つに位置付けており、本協議会でのご意見も踏まえつつ、「歴史・文化資源の整備と活用」が図られるよう努めながら、施策を実施してまいりたい。	